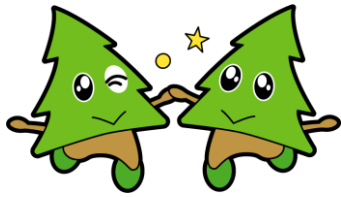


あきたスギッチファンド通信



No. 15 2013年8月10日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp

<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

ファンドの寄付金受取状況

(25年4月～25年7月)

本ファンド	
団体寄付	1,275,626円
個人寄付	111,500円
合計	1,387,126円
分野指定	
自殺予防	116,167円
合計	116,187円
総合計	1,503,293円



7月11日(木)、横手市のふるさと村で、平成25年度東北六県商工会議所連合会総会 横手大会が女性経営者約600名が参加して開催されました。その席上で、スギッチファンドに15万円の寄付金が贈呈されました。平賀ノブ会長から菅原理事長に目録が手渡され、理事長がお礼のことばを申し述べました。

25年度が始まってもう4カ月が経過しました。事務局では昨年度に引き続いて寄付金の取得に努めております。

6月1日からイオン秋田中央店1階にスギッチファンド応援ショップが開店しました。名前は知っているが、なかなかお目にかかれないという秋田の選りすぐりの旨いものを販売しております。出店者の参加費がスギッチファンドに寄付されます。

また、秋田駅東口に隣接する秋田拠点センターアルヴェの屋外きらめきコートでは、「新鮮市場 in アルヴェ」が開催されています。8月11～12日、9月21～22日に開催しますので、ぜひ訪ねてください。

社会貢献型の自動販売機は現在50台、寄付金の大きな比率を占め、スギッチファンドにとっては安定した資金となっています。

これからも皆さまのスギッチファンドへの共感を高めるよう努めて参ります。



6月29日、第6回(平成23年度第2回)助成事業、第7回(平成24年度第1回)助成事業の報告会を遊学舎で開催しました。詳細はP. 7～8をご覧ください。

助成事業は、6月2日(日)に第4回東日本大震災避難者支援応援ファンドの審査が、7月20日(土)には第9回あきたスギッチファンドの審査が行われました。詳細はP. 2～7をご覧ください。

東日本大震災避難者支援応援ファンド 第四次助成

第4回東日本大震災避難者支援応援ファンドの審査は、6月2日（日）遊学舎に於いてヒアリング方式で実施された。10万円コース3件、30万円コース1件、50万円コース2件の申請があり、全件が採択となった。

10万円コース

団体名 NPO 法人あきた子どもネット
事業名 県内避難者地域交流会・なべっこ交流会

震災から2年が経ち、県内に避難している避難者同士の交流する機会が減ってきている。地域の人やボランティアの協力の下、秋田市近郊でなべっこ交流会を開催し、秋田の風土や豊かな地産地消の食材で、心身ともにリフレッシュしてもらおう。

団体名 ほっとタイムサポートルーム ローズマリー
事業名 託児付きカルチャー講習会&お茶会

避難している女性、特に小さな子どもがいる母子を対象に、カルチャー講座、食のお話会、体に優しい食材を使った親睦ランチ会、同郷の方同士のお茶会などを4回開催する。託児を用意しており、小さな子どもがいるお母さんには子どもから離れてリフレッシュすることもできる。

団体名 ふくしまの集い
事業名 秋田県避難者学習支援

震災で秋田県内に避難している小中学生を対象に、昨年度と同様に週2回アトリオン6階ハーモニープラザを会場に教室を開設し、学習支援を行う。福島県出身で秋田県内の大学に通う大学生15名が講師、支援スタッフとなる。学力の向上と共に、参加者同士の交流を図りたい。

30万円コース

団体名 NPO法人グレープネット・ゆり
事業名 歌唱健康指導士と歌って食べて

被災地より由利本荘市、にかほ市に避難して来た方たちを対象に、歌唱健康指導士による健康維持につながる歌唱指導を実施。歌でストレスを発散し、健康増進に繋げてもらう。また子どもたちにはゲームなどのお楽しみ行事を通して友達を作ってもらおう機会とする。由利明誠高等学院の生徒たちに裏方として活動してもらおう。

50万円コース

団体名 NPO法人あきた海辺の自然学校
事業名 夏のリゾート感覚で過ごす3日間 in あきた白神

避難者に、8月23日～25日の3日間、八峰町あきた白神体験センターを拠点に、シーカヤック、スノーケリングの体験やきりたんぼ作り、花火大会、温泉などを楽しんでもらう。絆そして癒やし…秋田の良さに触れあう機会にしたい。

団体名 NPO法人秋田パドラーズ
事業名 希望の架け橋（カヌー製作で思いを形に）

避難者の親子やお友達といっしょに秋田杉のカヌー一艇の製作に参加してもらい、カヌー製作を通して親子の共通の話題や避難者同士の連帯感を感じ取ってもらおう。完成するカヌーに夢を託せるような事業を目指す。

第9回（2013年度第1回）助成先決定

第9回あきたスギッチファンドの募集は、5月15日～6月15日に行われた。応募状況は下表の通りである。

応募状況一覧

ファンドの種類	募集件数	応募件数
本ファンド 10万円コース	5	9
30万円コース	5	17
50万円コース	2	4
三国こども震災支援 10万円コース	2	1
30万円コース	2	2
50万円コース	1	2

7月20日（土）、第9回あきたスギッチファンド公開審査会が遊学舎に於いて開催された。

本ファンド10万円コースと、三国こども震災支援10万円コースは、書類審査と協議で決定することにした。30万円コースは応募が17件と多かったので、予め書類審査で10件を選び公開審査に進んでもらった。

当日のプレゼンテーションは全部で17件（三国ファンドで1件辞退）、各団体持ち時間は説明、質疑応答を含めて15分と限られているが、1日で審査できる限度の状態であった。午前9時30分から始めて、結果発表は午後5時過ぎという強行日程となった。

多くの団体が不採択となったが、審査委員からは次のような講評があった。不採択になったのはその事業に価値がないということではない、緊急性があるか、助成金がなくとも自分たちでできるのではないか、外に向かって社会的に広がりのある事業か、事業の組み立てがきちんとなされているか等が判断の基準となった、不採択だからとあきらめず、他に実施する方法を考える、他団体と協力するなど、工夫していただきたい、と述べられた。



プレゼンテーションの様子



審査委員長による講評

本ファンド

10万円コース

団体名 あきたAT研究会

事業名 自分らしく生きるために～アサーティブ・コミュニケーション講座～

アサーティブとは、「自分を一步前に押し出す、前向きに率直に自分を表現する」という意味である。大阪のエンパワメントセンター長中川和子氏を講師に迎え、アサーティブ・コミュニケーション研修を開催する。アサーティブを学ぶことで、職場や地域、家庭においてより良い人間関係を築くためのコミュニケーション力を身につけ、生きやすい社会へ結びつくことを目的としている。

団体名 NPO法人いきいきFネット秋田

事業名 子ども虐待防止のための支援者養成講座 MY TREEMY ペアレンツ・プログラム実践者養成（集中基礎講座）

昨年、「秋田の子育て・子育て・個育ち支援を考える ～MY TREE（子どもの虐待・DV問題を抱える親の回復支援プログラム）に学ぶ～」という事業名で、MY TREE ペアレンツ・プログラムの紹介講座を開催したが、今回はプログラムの実践に向けて、「MY TREEMY ペアレンツ・プログラム実践者養成（集中基礎講座）」を研修機会として提供する。子どもに関わる支援者が虐待のメカニズムについて理解を深め、虐待の発生予防、早期発見・早期対応、虐待を受けた子どもの保護・自立等を支援する力をつける。

団体名 あきたESDネットワーク

事業名 未来に活かそう！高校生のための「被災地行って、見て、聴いて」part2

高校生主体の被災地訪問「行って、見て、聴いて…未来を考える！」ツアーを3回実施する。60人の参加者を募集。主として釜石、大槌、陸前高田、気仙沼、石巻へ行って、被害の実態、避難の状況、高校生にできることなどを高校生の視点で考える機会とする。

団体名 公益社団法人全日本断酒連盟秋田県断酒連合会

事業名 自殺とアルコール関連市民公開セミナー

アルコール依存症、うつ病、精神障害の人たちの多くが自殺リスクを高めている。その自殺予防のためには、地域社会全体、自助グループ、個人々人を対象に、知識と理解を強化する必要がある。12月1日に、アルコール関連問題を理解すると共に、自殺予防対策、方法について学ぶ市民公開セミナーを開催する。

団体名 日本ダウン症協会秋田県支部 すみれの会

事業名 日本ダウン症協会 東北ブロック秋田大会 ～知れば知るほど愛おしい～

8月24日秋田市で「日本ダウン症協会 東北ブロック秋田大会」を開催する。積極的に多くの人に呼びかけダウン症の子のことを理解してもらおう。プログラムには、講演会、読み聞かせ、おもちゃライブラリーなどを盛り込む。障害のある子とない子の垣根を低くする機会にしたい。

30万円コース

団体名 NPO法人あきた福祉共生会

事業名 Hand to Hand カutting・チーム事業 ～障害者による高齢者のための訪問美容～

障害者福祉施設の事業所「ごろりんはうす」の支援員と、施設の利用者で美容師の資格を持つ者とでチームを結成し、訪問美容を行う。高齢者で身体的、精神的に美容所に行けない人を対象に、美容施術、生活相談、コミュニケーション、清掃、その他必要に応じた生活支援を行う。この事業によって、一方では障害者の就労、社会復帰のための一歩を支援することができ、他方では情報提供や相談業務などを行うことで高齢者を支援することができる。

団体名 NPO法人秋田バリアフリーネットワーク

事業名 高齢地域生活者総合支援事業

高齢者や独居生活者と地域の商店やサービス提供者をネットワークで結び、巡回員による安否確認、ご用聞きによる買い物等生活支援サービス、コールセンターのなんでも問い合わせサービスなどのきめ細かいサービスを提供する。
コミュニティの生活基盤を再構築し、地域生活者にとって安全、安心のまちを構築することを目的とする。

団体名 秋田県有機農業推進協議会

事業名 「オーガニックフェスタ in あきた 2013」と「ミニ・オーガニックフェスタ in 潟上」(仮称)の開催

8月17～18日、秋田市セリオンを会場に「オーガニックフェスタ in あきた 2013」を開催し、県内の有機農家らが消費者と交流、相互理解を深める。
8月2～4日、秋田市以外では初めて、潟上市の食彩館くららで「ミニ・オーガニックフェスタ in 潟上」を開催する。
フェスタを通じて、有機農家のネットワークを広げると共に、農業の大切さや食生活の大切さを理解する消費者を増やしていく。

団体名 舞踏舞踊ワークショップ実行委員会

事業名 舞踏・舞踊ワークショップ2013

舞踏の始祖・土方巽、モダンダンスの父・石井獏など、秋田が生んだ先駆者を顕彰しつつ、コンテンポラリーダンスの魅力を広く伝えることを目的として、ワークショップを開催する。講師に安達香澄、梶子びじんを迎える。
来年の国民文化祭で開催する「舞踏・舞踊フェスティバル in Akita」に繋げると共に、将来的には秋田を舞踏の聖地とする。

団体名 アキタ・パール街実行委員会

事業名 秋田にパール街がやってきた! part 2

9月13日、秋田市山王、通町、大町1、2丁目地区をエリアとして、参加店数75店舗を目標に、1ドリンク、1デッシュ(おつまみ)の飲食を楽しむ「パール街」を開催する。秋田を元気にしたいと活動中の若者に積極的に関わってもらい、事業を進めていく。
函館で始まった「パール街」を秋田らしいイベントに定着させて、地域活性化の切り札としたい。



50万円コース

団体名 NPO法人秋田県心の健康福祉会
事業名 地域自殺対策推進事業

精神障がい者の居場所「ユックリン」で、ピアサポーターを配置し利用者がいつでも気軽に相談できる対面型相談支援事業、電話で相談する電話相談支援事業、ピアサポーター養成講座の開催などの人材養成事業を行う。
自殺念慮者、自殺企図者、自殺未遂者の回復に居場所を提供し、様々な事業を通して自殺予防効果を上げることを目的とする。

団体名 NPO法人東日本大災害復興委員会（略称：EJDRF）
事業名 2013年度、EJDRF被災地交流体験事業

被災地でのボランティア活動の経験から、引きこもりの青年たちの心のケアとして、被災地支援とボランティア活動を実施することが社会復帰に繋がると考え、次の事業を実施する。

- ① 「EJDRFお茶っこ交流会」 被災地で支援活動をしている講師に被災地の現状と、支援ボランティアの活動について講演してもらい、引きこもり・閉じこもりの人たちの中から、ボランティア探検への参加に興味を持つ人を掘り起こす。
- ② 「EJDRF被災地支援ボランティア探検」 宮城県石巻市牡鹿半島地域で、牡蠣の養殖準備作業のボランティア活動と地域の人々との交流を経験してもらう。

冠ファンド 三国こども震災支援ファンド

10万円コース

団体名 こども未来ネット能代
事業名 クリスマス会においでよ！

避難者、外国人、地元市民が出会い、交流する機会として、クリスマス会を開催する。ブラスバンドの生演奏や読み聞かせ、バルーンアート実演、ネイガーそしてクリスマスケーキのデコレーション体験や試食などで、それぞれの立場を越えて楽しい時間を共有してもらい「孤独ではない」ことを実感していただく。

30万円コース

団体名 NPO法人秋田パドラーズ
事業名 キャンプで秋田の自然を知り、秋田で活動しよう

秋田に避難している親子や被災地からも親子で参加して、キャンプやカヌーイングなどを楽しんでもらう。被災者のために特別に企画するのではなく、パドラーズの通常の事業に参加してもらうことで、自然に交流し仲間作りができ、秋田に溶けこんでいくことができる。この事業の後でも、パドラーズのボランティア活動に一市民として参加してもらえるのではないかな。

団体名 仁賀保高校 Benkyo & Volunteer 同好会
事業名 福島の高校生を秋田にプロジェクト（FKAプロジェクト）

福島県の高校生をにかほ市に招き、2泊3日の交流会を行う。放射能の不安のないにかほ市で象潟の散策、鳥海登山、バーベキューなどの野外活動を楽しんでもらうと共に、原発のこと、将来のエネルギーのことなどについて意見交換する。BV会だけでなく秋田県内の高校生にも参加してもらい、学び合いの輪を広げる。

50万円コース

団体名 まちなかトープ
事業名 白い風と遊ぼう

福島県川内村やその周辺の富岡町、双葉町などの子どもと親たちを12月25日～29日に秋田に招き、森吉山の白い風で遊んで楽しんでもらう。被災地の人たちにとっては明日を生きる活力を生み出す機会に、またこの支援に関わる人たちにとっては原発や防災のことを考え、交流を深める機会にしたい。

事業報告会&NPO交流会

事業報告会

6月29日（土）、助成事業報告会を遊学舎で開催した。今回の報告対象は、第6回（平成23年度第2回助成）、第7回（平成24年度第1回助成）の22事業。各団体は活動内容や写真、成果などをパネルに掲示し、パネルの前の机には団体のパンフレットや成果物などを展示した。

インタビュアーの畠山が各団体を回り質問し、説明員が答えていくという形で進められた。説明は各団体5分と短く十分意を尽くせなかったかもしれないが、掲示はそれぞれ工夫が見られ分かりやすかった。当日説明員が欠席という団体もあったが、NPOセンターの職員たちでカバーしあい何とか全事業の報告をすることができた。

助成金の報告会は、事業の成果をまとめ次に活かすというだけでなく、寄付者への説明責任という観点からも大変貴重であると感じた。



団体を回って説明員にインタビュー

NPO交流会

事業報告会に続いて、同じ会場でNPO交流会を開催した。事業報告会に多くのNPO団体が集まるので、この機会にNPO同士の懇談、情報交換、意見交換を行おうと考えたのである。

最初に秋田県企画振興部地域活力創造課 県民協働・県民運動推進班 班長富岡伊穂子氏から「秋田県がNPO活動に期待する役割」と題して講話を頂いた。

NPOと行政との協働をすすめるために、行政側は「NPOインターンシップ」を通してNPOへの理解を深める。他方NPO側はみんなの努力でNPO全体としての評価・信頼性を高める。そして中間支援NPOは行政と協働してNPOのレベルアップに努める。それぞれの努力によって協働の新しいステージを築きたい、という県からNPOへの力強い支援と共に、NPOのレベルアップを求める講話であった。

この後、グループに分かれてNPO同士の情報交換を行った。活動状況、困っていること、工夫していることなどをフランクに話し合い、最後に各グループの話し合いの報告を行った。お茶を飲みながらの交流は好評で、こんな会を時々開いて欲しいという声が多かった。



地域活力創造課 班長富岡伊穂子氏
による講話



グループに分かれてNPO同士の情報交換